

## ■部会 Report

# 系統部会の活動紹介

系統部会長 **本庄 暢之**  
電源開発(株) 環境エネルギー事業部

### (1) 系統部会について

再エネ導入の障壁ということで系統問題がクローズアップされており、系統部会も60余名の会員に登録頂き、系統問題の理解と解決、導入拡大に向けた活動を行っています。系統部会の会員は、2015年から50名→58名→64名と次第に増大しており、系統問題に対する会員の関心の高さが伺えます。

電力会社から見た再エネ電源は、自社の発電所と異なり発電量の予想や制御が困難な電源であり、以前は電力会社が独自に連系可能量を設定するなどして、導入拡大が進んでいませんでした。最近ではエネ庁が再エネの導入拡大に指導力を発揮し、北海道や東北でも大量導入のための募集プロセスが開始されています。一方で、導入拡大のために再エネ事業者が果たすべき責任の議論もなされるようになっており、風力発電事業者には、電力受給契約の巻直しなどの対応が求められているところです。

系統部会は定例的な活動は月1回の月次の部会のみで、他の部会のようにWGを設置した活動はしていませんが、系統連系制約緩和検討TFと連携を取りながら、系統連系拡大に向けた活動を行っています。

### (2) 2016年度の活動概要

系統連系関係の2016年のトピックは、北海道と北東北の連系制約に対する対応です。昨年新たに設置され、JWPAを代表して電力会社やエネ庁対応を担当する系統連系制約緩和検討TFとJWPA会員の間の組織として、会員の声をTFに繋ぐ役割を果たしました。

北海道や北東北の風力導入拡大と比べるとスケールは小さいですが、既連系の再エネ電源に別電源を連系する件について意見をとりまとめ、広域機関やエネ庁と協議しFIT制度上も可能であることを確認したのは、1つの成果でした。これは「クロス連系」や「ハイブリッド連系」と呼ばれるようになり、いくつかの事業者が実現に向けて調整中と聞いています。

また、広域機関や米国変動電源統合団体の事務局長を招いて、セミナーや説明会を開催し、系統連系関連情報の周知に努めました。セミナーで得られた周波数対応風車などの最新情報は、その後の関係機関との協議のなかで活用されています。

セミナーや説明会と言った周知啓蒙活動と並んで、7月にユーラス江差、ジェイウインド上ノ国、北本交直変換所の現地見学会を実施し、新鋭風力発電所の状況や、北本連系設備の運用に関する知見を深める現地見学会も開催しております。

系統部会では、以前から電気学会の雷保護対策検討活動の受け皿として活動をしておりますが、2016年度は、NEDOから電源開発が受託した「風力発電高度実用化研究開発/スマートメンテナンス技術研究開発「雷検出装置等の性能・評価技術の開発」のうち、「過去の事故例調査業務」を電源開発から受注し、調査報告書を取りまとめて報告しております。

### (3) 2017年度の活動計画

2017年は、一部の電力会社で出力制限の開始が予想されることもあり、事業者に対する受給契約の巻直しの働きかけや、電力会社との出力制限の具体的な実施方法の協議といった活動に注力することになります。また現在実施されている北海道電力の系統蓄電池募集プロセス、北東北の電源募集プロセスを注視しながら、問題があれば系統連系制約緩和検討TFと協調して活動したいと思います。

NEDOから受注した「過去の事故例調査業務」は、関係各社のアンケート調査に協力します。アンケートで得られた知見は、風車の雷被害の実態状況として専門家に共有され、将来有効な雷対策策定に資することが期待されます。

セミナーや説明会、現地見学会なども例年通り開催し、系統問題に関する会員の知見拡大に貢献したいと考えております。